

2024年1月28日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解32「再生の道」

イザヤ2：1～5、ローマ6：12～14

問87 それでは、感謝も悔い改めもない歩みから神へと立ち返らない人々は、祝福されることができないのですか。

答 決してできません。なぜなら、聖書がこう語っているとおりだからです。「みだらな者、偶像を礼拝する者、姦通する者、泥棒、強欲な者、酒におぼれる者、人を悪く言う者、人の物を奪う者は、決して神の国を受け継ぐことができません」。

実際、わたしたちの歩みを振り返れば、ここに記されている通りの生活であり、神の国を受け継ぐ資格など全くないと言わなければなりません。ところが、そのようなわたしたちが何の功績にもよらず、ただ恵みによってイエスさまを通して救われました。これは本当に恵み、驚くべき神さまからのプレゼントです。そしてそのように恵みによって救われた者がどう生きるのか。その再生の道こそ、今日から入ります信仰問答の第三部「感謝について」の部分に言い表されていることです。そこで問86に注目します。

問86 わたしたちが自分の悲惨さから、自分のいかなる功績にもよらず、恵みによりキリストを通して救われているのならば、なぜわたしたちは善い行いをしなければならないのですか。

答 なぜなら、キリストは、その血によってわたしたちを贖われた後に、その聖霊によってわたしたちを御自身のかたちへと生まれ変わらせてもくださるからです。それはわたしたちがその恵みに対して全生活にわたって神に感謝を表し、この方がわたしたちによって賛美されるためです。さらに、わたしたちが自分の信仰をその実によって自ら確かめ、わたしたちの敬虔な歩みによってわたしたちの隣人をもキリストに導くためです。

ここには、どうして救われた者が感謝の生活、善い行いをするのか。この感謝の生活の源、原動力が言い表されております。何でもそうですが、行動を起こすためには、その原動力、動機が必要です。それは何でしょうか。その人の良心でしょうか、高い志でしょうか。「聖霊によってわたしたちを御自身のかたちへと生まれ変わらせてもくださる」とあります。わたしたちは聖霊に導かれ、洗礼を受けてイエスさまに結ばれます。そこではわたしという存在がイエスさまのかたちに、神の子に変えられていきます。わたしの中にイエスさまが生き始めるのです。パウロも言います。「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられる」（ガラテヤ2：20）ここにキリスト者の新しい人間理解があります。

「かたち」と聞くと、わたしたちは人間が神さまのかたち、神さまの似姿に造られていることを思い出すでしょう。そのことは信仰問答でも最初に人間は良いものに造られたことを述べております（問6）。しかし残念ながら人間はこの良い状態が保てませんでした。罪を犯して、神さまのかたちを壊してしまいました。それが様々な罪の現実となって現れてきます。それゆえ「どのような善に対しても全く無能であらゆる悪に傾いている」（問8）と言います。ところがそのわたしたちがイエスさまによって救われて、神さまのかたちを取り戻していくのです。今まさにその歩みを始めたのがキリスト者です。もちろん完全ではありません。弱さは残ります。しかし始めるか始めないかでは大きな違いがあります。自分の身体のことを考えてくださってもいいでしょう。年齢を重ねていくと体力が落ちてくる。何もしないで、このままでいいと考えるのか。それとも、このままではいけないと考えると、少しずつでもいい、体のために何かを

しようとするか。そこには将来大きな違いが生じてきます。わたしたちはこの罪のままではいけないと考えて動き始めた者です。

そしてわたしたちには明確な目標があります。まず「わたしたちがその恵みに対して全生活にわたって神に感謝を表し、この方がわたしたちによって賛美されるため」です。ここに「全生活にわたって」とあります。日曜日だけ、気が向いた時だけではありません。イエスさまのかたちに生まれ変わらせていただいているわたしたちはその全ての存在が神さまへの感謝、賛美になるのです。今日の聖書の御言葉でも「自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また五体を義のための道具として神に献げなさい」（ローマ6：13）とありました。わたしたちはもう罪に支配されているのではないのです。この罪に死んで新しい命へと生まれ変わらせていただきました。神さまに自分を献げて生きる新しい歩みがすでに始まっています。

さらに「わたしたちが自分の信仰をその実によって自ら確かめ、わたしたちの敬虔な歩みによってわたしたちの隣人をキリストに導くためです」とあります。その善い行いを通して、隣人をキリストに導く。つまり伝道です。感謝の生活は、自分の信仰を確かにするだけでなく、隣人のためでもある。家族のため、関わりのある人たちへこの新しい命を広げていくために、わたしたちはキリスト者として召され遣わされているのです。

伝道が振るわないと嘆くことがあります。このままで教会は大丈夫だろうか。それなら特伝をすればいい、バザーやコンサートをすればいいというわけではない。伝道は小手先のことや方法論ではありません。わたしたち一人ひとりがイエスさまの命を生き、感謝の実を結ぶことが何よりも大切です。うつむいて、不満ばかり口にしていたら、伝わるものも伝わりません。戦争や災害のあるこの暗い時代に、頭を上げて、上を見上げて、感謝に生きることができたなら、それは周囲の人々にイエスさまの愛の温もりを伝えるものとなるでしょう。

オンラインの会議で、北陸、能登の教会の被災状況が報告されました。輪島教会は会堂も牧師館も全壊です。牧師も教会員も避難所で生活されておられます。日曜日は避難所の廊下で集まった牧師他3名の教会員で聖書を読み小さな声で賛美をして礼拝を献げておられると聞きました。そこは避難所ですから、その礼拝の様子を見ている人たちが必ずいるでしょう。このような極限的な状況の中で、この人たちは一体何をしているのだろう。でもその小さな礼拝こそ周囲の人々をイエスさまへ導く伝道の御業なのです。

天の父よ。罪深いわたしたちをあなたのかたちへ、イエスさまの似姿に生まれ変わらせてくださる幸いを感謝します。どうか、わたしたちの中にイエスさまのよみがえりの命が注がれていることを覚えさせてください。そしてその恵みに応え、その命にふさわしい歩みをなしていくことができますように、聖霊の助けをお願いいたします。能登の被災地にある教会、特に輪島教会の上に、その礼拝の上に祝福が豊かに注がれますように。主の御名によって祈ります。アーメン。